

IV-62

中山間地域における社会資本整備に対する住民意識の分析

秋田大学 学生員 ○船木 孝仁
アジア航測(株) 正 員 滝口 善博
秋田大学 正 員 木村 一裕
秋田大学 正 員 清水浩志郎

1. はじめに

ダム事業などの大規模な社会基盤整備は、その必要性にも係わらず、事業の実施が次第に困難になってきている。それは、自然や生態環境に対して、少なからぬ影響が避けられないことのほかに、波及効果として期待されている地域開発効果に対する疑問、地域のコミュニティの変容などといった、マイナス面に対する不安によるものと思われる。

また、住民意識として、事業の意義や期待される効果に対しては大凡の部分で理解しながら、日常生活において、どうしても失いたくないものに対する執着が考えられる。そうしたことで事業の滞りがあるとすれば、細心の配慮をもって事業の理解を図ることが求められよう。このような住民意識の問題は、効果に対する期待感と見通しとのギャップや、生活におけるこだわりの部分と、それに及ぼす影響度合いの見通しの問題として理解することもできよう。

以上の観点から、本研究では進捗状況の異なるダム建設地域の住民意識から、社会資本整備に対する期待と不安を、住民の抱いている見通しという視点から考察することを目的としている。

3. 事業に対する期待と見通し

本研究では4つのダム関連地域に住む20歳以上の人を対象者に、平成8年11月に調査を実施した。調査内容はダム事業にともなう生活環境、自然環境の変容等に対する意識についてである。表-1に対象地域とダムの進捗状況を示している。A、Bはいずれも計画中のダムであり、Cは建設中、Dはすでに供用しているものである。回収数はA地域249票、B地域221票、C地域180票、D地域273票であった。

(1)ダム事業に関する関心度と期待感

ダム事業に対する関心度と期待感について、図-1に示している。A～Cの地域では期待度にくらべ

関心度が高くなっており、とくに工事中のC地域では、関心度が高い。またD地域については、事業が完了したこともあって、過去における期待感に比べ、現在の関心度が低下しており、事業の過程において、住民の期待や関心が変化していることがわかる。

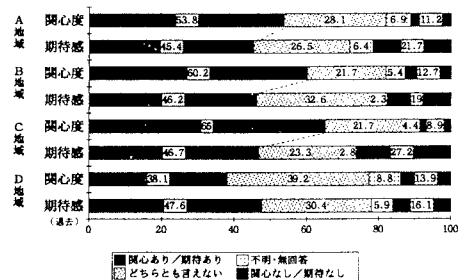


図-1 ダム事業への関心度と期待感

(2)ダム事業効果に対する期待と変化の見通し

ダム事業の効果に対する期待感と、これとは必ずしも一致しない見通しとの関係について、数量化Ⅱ類を用いて分析を行った。分析には、表-2に示すようなダムの直接効果に関する要因のほか、人口、産業、経済、住民サービス、交流、自然・生態環境等の要因に対する見通しなどの要因を用いた。

外的基準を「全体として町が変わること」とした場合と「ダム事業に対して期待している」とした場合の2つについて分析を行った。各地域において、偏相関係数の高い要因を表-3に示している。

計画段階であるA地域、B地域では、「商工業の変化」、「催し物・行事」に対する見通しが、全体的な町の変化に対する見通しに影響しており、見通しとしても明るい見通しが多い。事業に対する期待については、商工業、洪水の不安の解消、社会基盤として道路交通の改善、町の施設の充実に対する期

表-2 地域の変化要因

表-1 調査対象地域とダム事業の進捗状況

地域	進 捗 状 況
A	計 画：ダムサイト位置、地質状況調査中
B	計 画：ダムサイト概ね決定、審議会開催
C	建設中：工事用道路、付け替え道、工事中
D	供 用

- 1) 就労場の増減
- 2) 人口の増減
- 3) 観光名所の増減
- 4) 道路交通の利便性
- 5) 町の施設の充実
- 6) 教育環境の充実
- 7) 人間関係の向上
- 8) 水不足の不安の増減
- 9) 洪水の不安の増減
- 10) 川の平均水量の増減
- 11) 川の水量変動
- 12) 川の水質の向上
- 13) 森林の増減
- 14) 生態系の確保
- 15) 景観の向上
- 16) 催しもの・行事の増減
- 17) 他の町との交流の増減
- 18) 人の流入
- 19) 商工業

待感の影響が大きい。

これに対して、建設中のC地域では、町の全体的な変化の見通しにに対しては、商工業、森林、人口、周辺との交流などに対する見通しが影響しており、とくに、商工業環境や自然環境等については、必ずしも楽観的な変化の見通しを持っていないことがわかる。しかし、期待感において、景観の向上の期待が高いなど、他の地域に比べ、環境の変化に対して関心度が高く、かつ安定しない傾向がうかがえる。

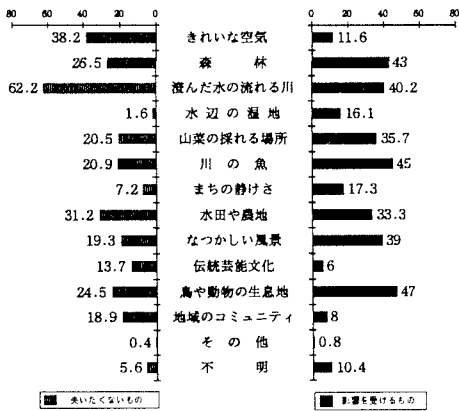
表－3 町の変化、事業に対する期待に影響を及ぼす要因

地域	事業による町の変化の有無	事業に対する期待の有無
A	・商工業の変化(+)・催し物・行事	・商工業の変化(+)・洪水の不安解消(+)
B	・川の平均水量(-)・催し物・行事	・道路交通の改善・町の施設整備
C	・商工業の変化(+/-)・森林の変化(-)・人口の(+/-)・周辺の町との交流(+)	・景観がよくなる・川の平均水量・商工業の変化(+/-)
D	・町の施設整備(+) ・川の平均水量(-) ・商工業の変化(+/-) ・川の水量変動安定(+)	

(-)内のは「向上する」(+),「変わらない」「悪化する」(-)のうち反応の多い回答

4. 「失いたくないもの」とそれへの影響

図－2にはA地域の住民の、日常生活において失いたくないものと、それに対して、どの程度影響があるかという見通しを示している。失いたくないものとしては、「澄んだ水の流れる川」が最も高く、次いで「きれいな空気」、「水田や農地」など、自然や生態環境に関するものが高くなっている。生活や文化的なことについては、「山菜のとれる場所」、



図－2 A地域での「失いたくないもの」と事業による影響

「なつかしい風景」が高い値となっている。全体として空気や水を除けば、影響を受けるとする割合のほうが高くなっている。

これを、事業が完了しているD地域と比較し、特徴的な項目について整理したものを表－4に示している。「澄んだ水の流れる川」や「川の魚」、「鳥や動物の生息地」などの自然や生態環境に関する事柄については、失いたくないものとして、D地域の住民にも認識されているが、影響度合いについては、影響があったと感じる割合は低くなっており、計画段階や、工事段階では不安はあっても、見通しほどの影響がない事柄であるといえる。これに対して「山菜の採れる場所」については、D地域において影響があったとする割合が高くなっている。以上のように、地域住民におけるこだわりと、それに対する影響の見通しについても、過度に危惧や予想以上の影響など、事業の進捗状況により異なることが明らかとなった。

表－4 失いたくないものに対する影響の比較

失いたくないもの (A～C、D)	影 響 度 合 い	
	A～C	D
1. 澄んだ水の流れる川 (68.2/58.2)	47.4	31.9
2. 山菜の採れる場所 (22.6/25.6)	37.4	45.1
3. 川の魚 (19.5/21.6)	52.4	32.6
4. 鳥や動物の生息地 (22.5/19.0)	47.1	28.6
5. 伝統芸能・文化の伝承 (10.4/13.2)	6.0	2.2

単位% (A～C地域は見通し D地域は評価)

5. おわりに

本研究では、社会基盤整備の実施される地域の住民にとって、不安要因となりうる期待と見通しのギャップや、生活におけるこだわりの部分と、それに及ぼす影響度合いの見通しをとりあげ、進捗状況の異なる4つの地域を取りあげて比較検討を行った。

これらの地域は、人口や産業基盤、経済活動の状況、周辺との関わり等々、さまざま点において異なる地域であり、今回の調査のみから判断できることは少ないが、事業の各時点において関心の一定なものや、時点によって認識の異なっているものを明らかにすることができた。今後、立地状況等を含めた、より広範な視点から分析したいと考えている。

なお本研究では「中山間地域研究会(事務局:建設省鳥海ダム調査事務所)から貴重なご助言ならびに資料提供をいただいた。ここに記して感謝の意を表します。